

9. 急病センター部

夜間急病センターは、昭和 47 年 1 月の開設以来、札幌市における夜間の初期救急医療施設として中心的役割を果たしている。

診療体制は、会員及び専任医員、準夜・深夜協力医並びに支部、医会、協力団体の献身的な支援により維持されている。

長年、夜間の初期救急医療施設として急病患者に対応してきたが、令和 8 年 4 月からは夜間診療に加え新たに日曜・祝日等の日中帯に小児科休日診療を実施することとなった。会員並びに関係機関と連携し札幌市の小児救急医療を支え夜間救急医療とともに市民に信頼される施設となるよう努める。

また、現在の夜間急病センターは移転後 20 年以上が経過し、各種医療機器は経年劣化が進んでいる。患者診療に支障なく使用できるよう関係行政と連携し、計画的で速やかな更新を進めていく。

急病センターが将来においても、市民が安心して受診できる施設として診療機能の最適化を図り、都市型の急病センターとしての役割を果たすため、当直医等が安心して診療できる環境を整備し、効率的で安定した診療体制の強化を図る。

1. 急病センターの効率的な運営を図るため経営的改善の継続
2. 会員、協力医及び専任医員による当直医体制を維持するため、医師の働き方改革等を見据えた安定的な当直医の確保に努める
3. 患者、医師、医療従事者等に対する安全対策の継続
4. 診療機能・情報機能等の充実
5. 運営の資するため、他都市急病センター等の視察
6. 経年劣化を見据えた各種医療機器の計画的かつ速やかな更新
7. 小児ドライブスルー発熱外来の効率的な運営
8. 小児科休日診療拠点事業の円滑な運営